

# 地域共生社会とは

## 資料2

◆制度・分野ごとの『縦割り』や「受け手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きかがい、地域をともに創っていく社会

### 支え・支えられる関係の循環

～誰もが役割と生きかがいを持つ社会の醸成～



- ◇居場所づくり
- ◇社会とのつながり
- ◇多様性を尊重し包摂する地域文化

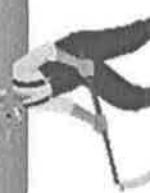
- ◇生きがいづくり
- ◇安心感ある暮らし
- ◇健康づくり、介護予防
- ◇ワークライフバランス

### すべての人の生活の基盤としての地域

### 地域における人と資源の循環

～地域社会の持続的発展の実現～

### すべての社会・経済活動の基盤としての地域



- ◇社会経済の担い手輩出
- ◇地域資源の有効活用、雇用創出等による経済価値の創出

- ◇就労や社会参加の場や機会の提供
- ◇多様な主体による、暮らしへの支援への参画

環境

産業

交通

農林

1

# 行政内部の部門間協議の必要性

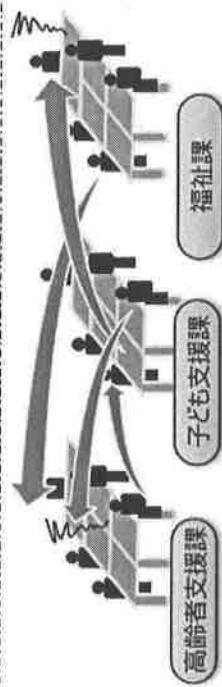
- 本事業のデザインにあたって、まずは自治体内の関係部署間の定期的な協議の場が必要
- 縱割り行政が複合化・複雑化した課題を抱える支援が難しくなっている側面もあることから、重層的支援体制
- 整備事業の多機関協働事業は、こうした縦割りを越えて、部署間で協働するための取組み
- 他方で、縦割りが全くなければ無秩序な状態となりやすく、マネジメントや業務の全体像の把握にかかる負担が大きくなることから、縦割りの撤廃ではなく、壁を低くして、連携コストを引き下げる取組と考える。

## 縦割りが過ぎると、部署間の連携コストは高くなる

- ✓ 対象者別の制度間の壁が高すぎると、縦割りの弊害が最大化し、支援対象者への円滑なリーチアウトができない。
- ✓ 重層的支援体制整備事業は、この「高すぎる壁」問題へのアプローチである。

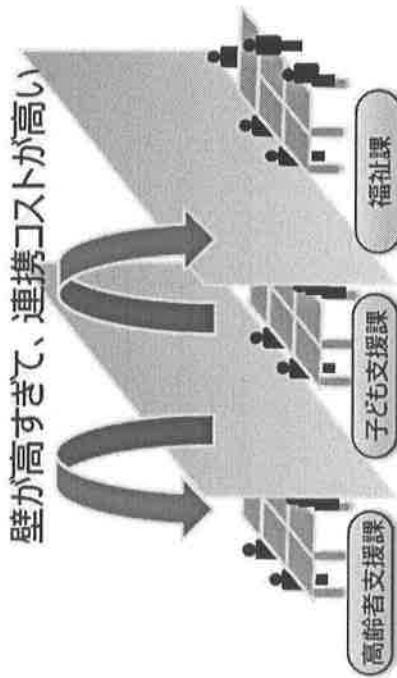
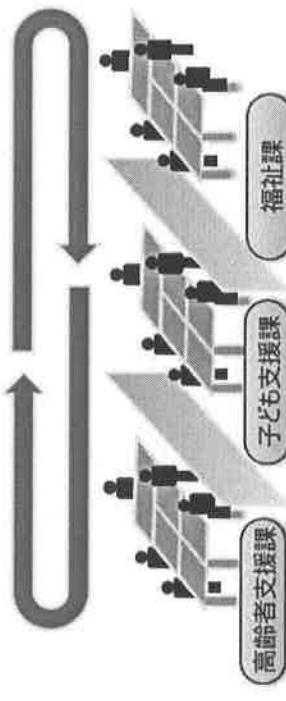
制度間の壁を全部取り払つたら大混乱

現場の壁をすべて取り払えば、役割分担もできず、現場は混乱に陥るだけ。一定の組織的区分は業務の適切な運用に不可欠。各分野の制度を、ひとまとめてにするわけではない。



制度間の壁は残しつつ、壁を低くして風通しを良くする

既存制度の制度間の仕切りは残します、対象者別の制度の壁を低くすることで、風通しを良くし、スムーズな連携を目指す。スムーズな連携を阻害しているのは何かを検討することが大切。



## 重層的支援体制整備事業のイメージ

